

参加者氏名：城 由美子

卒業年；1982年 卒業学部：産業社会学部

### 「現地を訪問して想うこと」

東日本大震災を契機に福島市内の中学校と、当時私が勤務していた中学校とが交流をしていました。その時の福島の校長先生のお話のなかで、「校舎は被害が少なく、震災後の日常は以前と変わりません」「ここで暮らす覚悟を決めました」という言葉があり、私の心の中にずっと残っていました。地震、津波の被害の上に原発による被害。このことばの中にどんな気持ちがこめられているのだろうか。

今回、現地を訪問させていただき、少しは校長先生の心に触れることができたような気がします。確かに、復興の道なかば、或いは立ち入ることもできない区域もあり、「日常は変わらない」はずはありません。でも、郡山駅の前は、被害を忘れてしまいそうなにぎわいがありました。校友会の方も「元気をとりもどし、日常生活をふつうに過ごしている所もあることを知ってほしい」とおっしゃっていました。そう思います。

福島県は広いですね。高速道路を使って移動中に放射線量を示す電光掲示板がありました。浪江町の町の中にも設置されていました。その数字を見ながら「安全？」とつぶやいてしまう自分がいます。移動中のバスの中の会話にも「線量計の数字を見ながら住んでいる人たちはどう判断しているの？」という質問がありました。住んでみえる方が数字に応じた対応を心得てみえるということでした。その話を聞きながらこれが「覚悟」なのかもしれないと思いました。危険を回避しながらふるさとの「ここで生きる」ということ、放射線に対して正しい地域を持ち、安全に暮らすこと。正しい知識がないと風評に惑わされてしまう。私自身わかっているつもりでも、実はちっともわかっていなかったと痛感しました。

放射線は目に見えず、熱も光も何も感じません。だからこそ不安がつのります。もう一度きちっと正しく勉強し、正しい知識を身につけようと反省しました。

5年もたつのに街の跡は草野原のまま、傾いた家もそのままの姿を目の当たりにし、言葉にできない思いがこみあげます。そして、またこのレポートを書いている最中に地震と津波の速報。校友会のみなさまの顔が浮かびます。だいじょうぶでしたか。つらいけど、あきらめないで！きつとがんばれる！

今回のツアーで体感したことを忘れずに、そして私も「覚悟」を持って日々過ごしていきます。みなさん、ありがとうございました。

追記) 北塩原村の諸橋近代美術館(ダリコレクション) ちょっと遠いけど、旅行先の候補にします。教えてくれてありがとうございます。